



全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 相澤健二／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎(03) 3263-0271
ホームページアドレス／http://zensyokyo.jp/



2016年11月7日 民進党消防政策議員懇談会：全消協会長から消防庁次長への要望書手交

全消協は、毎年開催されている民進党消防政策議員懇談会(以下・議員懇)の総会を通じて、議員懇の皆さんの協力を得て、総務省消防庁に要望書を提出するなどの活動を行ってきました。

今年度は、新たに議員懇の構成議員にむけた勉強会を企画し、「消防職場の現状と課題」と題して、

パワーハラスメントの現状、消防職員委員会制度の限界、団結権回復をテーマにして現状を訴えました。この勉強会で全消協は、消防庁の「消防本部におけるハラスメント等への対応策に関するワーキンググループ」(以下「ハラスメントWG」)2017年2月6日開催の第1回メンバーに、「なぜ現場の消防職員が参画していないのか」と提起をいたしました。

「現状を知る消防職員の生の声こそハラスメント解決に役立つはず」と訴え、議員懇事務局長の江崎孝義の協力のもと、全消協と消防庁の意見交換会の場が設けられ協



2017年3月28日 第2回消防庁次長と女性事務局長と竹内議員と江崎議員と報告



2017年4月13日 全消協四役と消防庁長との意見交換会

また、消防庁ハラスメントアンケートの設問内容について全消協に意見を求めるなどハラスメント対策についての協議が重ねられ、結果として全消協の考え方や意見が反映されるようになりました。

また、消防庁ハラスメントアンケートの設問内容について全消協に意見を求めるなどハラスメント対策についての協議が重ねられ、結果として全消協の考え方や意見が反映されるようになりました。



2017年4月14日 連合シンポジウム：近江会長と神津里季生連合会長

2017年度

全消協活動経過報告

民進党消防政策議員懇談会、総務省消防庁対応について

事務局次長 竹内洋司

長野県消防防災ヘリ墜落事故について

事故の概要

2017年3月5日(日)午後1時33分、山岳遭難救助訓練の為に県営松本空港を飛び立った長野県消防防災ヘリコプター「アルプス」が、松本市鉢伏山(1929m)山中に墜落し、県内各消防本部の精鋭消防隊員7人、操縦士、整備士ら搭乗員9人全員が殉職しました。



長野県消防防災ヘリコプター「アルプス」



県役員で献花

航空センターへ設けられた献花台

国内で、過去最悪規模のヘリコプター事故となり、県警の現場検証では、現場近くのカラマツ林にメインローターが接触したとみられる痕跡があり、何らかの原因でヘリコプターが低空飛行し尾根の木に接触、墜落した可能性が強くまっています。

長野県消防としての活動と今後の検討事項

今回の事故で、上田消防職員協議会が殉職。長野県消防職員協議会として何が出来るかを幹事会で話し合いました。

〈具体的な活動〉

- 殉職会員告別式に弔電、長野県消防関係者へ弔電
- 長野県消防防災航空センターへ県役員で献花
- 5月30日(火) 長野県消防防災ヘリ墜落事故殉職者合同追悼式(県主催)へ長野県消防財前会長参列

〈今後の検討事項〉

- 殉職会員ご遺族と話し協議会としてできることを確認
- 墜落現場へ慰霊登山し献花
- 長野県危機管理本部への申し入れ

1番に関係機関へ求めていきたいと思えます。

全国幹事として8年間、未組織消防本部の職員をはじめ全国の消防職員、自治労関係者、また、国会議員の方々との出会いがありました。

先人は何度も戦っては負け、戦っては負けて、でも諦めずに戦い続けて、最終的には権利を得てきました。今では当然と思われている権利の中には、そのようなものが多く存在します。

事故発生直後、全国の消防職員の方々に「何か協力できることはないか?」等励ましの言葉をいただきました。

この8年間で忘れられない出来事があります。それは、私が全国幹事として携った「消防職員金未払訴訟」つまり裁判です。

今までは、消防職員の権利を得るための戦いすらも行われてきませんでした。今では当然と思われている権利の中には、そのようなものが多く存在します。

「権利」が司法から否定されている「権利」を消防職員には認めたくないという「理不尽な「憤り」を感じたことを今でも鮮明に覚えています。

裁判が終わり、協力をお願いしていた女性弁護士の方から一通の手紙をいただきました。今でも大切に保管し、辛い時や心が折れそうになった時に読み返します。

この手紙と二六四二枚の刺は私の一生の宝物です。岩本展政(中国ブロック幹事)

長野県消防職員協議会特別幹事 (全消協北信ブロック幹事) 返町直也



手紙と二六四二枚の思い出

第45回全国消防職員研究集会

2017年6月5日～6日の2日間、TOCC有明(東京)にて第45回全国消防職員研究集会を開催、133単協、249人の会員が参加した。

全体集会 (初日)

はじめに、2017年3月2日に発生した長野県消防防炎へり墜落事故で亡くなった仲間への黙とうをおこなった。

近江孝之会長より、「消防職員の取り巻く状況を研究会で学び



「消防職員を取り巻く情勢」について、竹内洋司事務局長より、議員

議論していただき、質の高い消防サービスの提供に繋がることが願っています」と主催者挨拶を述べた。続いて、仙谷尚彦自治労中

央本部副執行委員長、自治労組織内議員の江崎孝参議院議員より来

賓の挨拶をいただき、全体集いが開始された。

相澤健二事務局長より、消防力の整備指針に基づく整備率の向上

について、労働環境の改善について、緊急消防援助隊の課題について、国際連帯による団結の回復

について、今後の全消協の取り組みについて等を提議した。

「熊本地震について」

阿蘇広域行政事務組合消防本部の西岡博之消防長(元全消協幹事)より、熊本地震での体験談や災害活動を報告していただいた。

分科会 (2日目)

分科会各担当者の所感

第1分科会「組織強化・拡大」

「明日からできる組織強化・拡大」をコンセプトとし、午前中は座学、午後からはブロック幹事が未組織役・会員役となり、参加者が執行部役としてオルグを実施する(ロールプレイ方式)内容です

「実際のやってみると難しい」「うちの単協でも実施したい」との参加者アンケート結果からも成功の手応えを感じた。(和田幹事)

第2分科会「賃金・労働条件」

幹事より「賃金・労働条件の基本的な知識」と「無賃金拘束」について、藤原修身弁護士より「消

防職員の賃金・労働条件について」の講義をおこなった。その後のグループ討論の時間を長く設定することで多くの意見が引き出され、力強いグループ発表に繋がったと感じた。(権名津幹事)

第3分科会「救急医療体制」

現場の職員目線で行う事を目的に、救急の問題点をディスカッションした。株式会社エンパワ21の能勢ゆき代表より「救急隊員の接遇コミュニケーション」と題し研修を受けた。現場では感染防止のゴーグルやマスクを装着しているため表情が分かりにくい、威圧感を与えないように相手の視線で「安心してください」という言葉をかけると良いのでは、という言葉が印象的であった。(返町幹事)

第4分科会「労働安全衛生」

消防職場のハラスメントについてディスカッションをおこなった。未組織消防職場から参加し

「イコボス」について紹介した。男性が多い消防職場において育児休暇制度は馴染みがないと思う。少しでも男性職員の育児休暇取得への理解が職場全体に深まり、より良い職場環境となることを期待する。(吉田ユース部幹事)

第5分科会「男女平等参画・国際連帯活動」

「イクボス」について紹介した。男性が多い消防職場において育児休暇制度は馴染みがないと思う。少しでも男性職員の育児休暇取得への理解が職場全体に深まり、より良い職場環境となることを期待する。(吉田ユース部幹事)

「イクボス」について紹介した。男性が多い消防職場において育児休暇制度は馴染みがないと思う。少しでも男性職員の育児休暇取得への理解が職場全体に深まり、より良い職場環境となることを期待する。(吉田ユース部幹事)

「イクボス」について紹介した。男性が多い消防職場において育児休暇制度は馴染みがないと思う。少しでも男性職員の育児休暇取得への理解が職場全体に深まり、より良い職場環境となることを期待する。(吉田ユース部幹事)

「イクボス」について紹介した。男性が多い消防職場において育児休暇制度は馴染みがないと思う。少しでも男性職員の育児休暇取得への理解が職場全体に深まり、より良い職場環境となることを期待する。(吉田ユース部幹事)

「イクボス」について紹介した。男性が多い消防職場において育児休暇制度は馴染みがないと思う。少しでも男性職員の育児休暇取得への理解が職場全体に深まり、より良い職場環境となることを期待する。(吉田ユース部幹事)

「イクボス」について紹介した。男性が多い消防職場において育児休暇制度は馴染みがないと思う。少しでも男性職員の育児休暇取得への理解が職場全体に深まり、より良い職場環境となることを期待する。(吉田ユース部幹事)

2017年度 PSI-JC 男女平等セミナー

江部寿ユース部幹事が全消協でのLGBTへの取り組みを報告

2017年6月23日(金)から24日(土)にかけて、東京サリオンパレスおよび自治労会館において2017年度男女平等セミナーが開催され、全消協ユース部から江部寿・高橋秀明・鈴木銀河、女性連絡会から福山優花、全消協特別幹事・仲野桂太が参加した。

第1目、各団体からの報告にて、全消協は江部寿ユース部幹事(北海道ブロック)より「偏見(差別：第一歩(LGBTとの出会い)と題して、全消協ユース部

がLGBTに対しての理解を深めるために取り組んできた活動内容について報告をおこなった。その後、9つのグループに分かれて「LGBTQIについて」何ができるか?何をやるか?」をテーマにグループ討論と発表をおこなった。参加者同士で自分の職場や生活の中にある身近な偏見や組織としての対応方法などについてさまざまな意見があった。最後に講師である増原裕子さんから総括があり第1日目のセミナーが終了した。

第2日目、国交連合が主体となり、幼少期からの教育やアニメの影響が大きいとの

意見があった。教育・メディアなどを活用し固定観念をなくすことができれば、多様な性を認めていく社会につながると思う。多くのグループで発表された。



報告をおこなう江部ユース部幹事

最後に、佐藤良太PSI-JCユースネット共同議長からのまとめ、閉会のあいさつがあり2日間のセミナーを終えた。

りワールドカフェが開催された。ワールドカフェとはカフェにいるようなリラックスした雰囲気の中で自由に話し合い、一定の時間がきたらグループのメンバーをシャッフルして話し合いを発展させていく討論方法である。テーマは「性別による固定観念をなくしていくために」について話し合いがおこなわれた。



参加者全員での集合写真

明治大学自治労寄附講座

「消防職員の活動と地方自治体の責任」について講義する

女性連絡会代表 青木玲奈

2017年6月13日に明治大学駿河台キャンパスにて、自治労の寄附講座に講師として参加させていただきました。毎年この時期に全消協として1講座時間をいただき「消防職員の活動と地方自治体の責任」についてお話しをさせていただきました。

「学生は労働組合に対してまだ少し悪いイメージや感情はなく、これから理解していくものですので、ありのままを伝えてください」と教授からお聞きして講義に臨みました。

業務内容や訓練風景、労安に関する殉職事例などの仕事についてはもちろんですが、消防職員には労働基本権が与えられていないことや、そのこと

ついて日本政府はILOから幾度となく勧告を受けていることを伝えました。のちのアンケートは大学生という第三者の客観的意見ということで、素朴だからこそ鋭い厳しい現実的な内容も多数あり、今後の活動に非常に参考になるものでした。消防の仕事は現場出場以外なかなか市民の目に触れることはなく、こうして外へむけて話すことは非常に貴重な機会だと改めて感じました。

Facebook はじめました!

全国消防職員協議会 公式Facebook

全消協 検索

女性連絡会 公式Facebook

全消協女性連絡会 検索

全消協活動や注目の消防関連ニュースなど最新情報を掲載しています。ぜひ「いいね!」をお願いします。